

# 平成 28 年度 事業報告書

公益財団法人予防医学事業中央会

厚生労働省では、がん検診や、特定健診・特定保健指導等について、それぞれ科学的根拠に基づくデータをもとにして、あり方の検討会を開催して見直しをしている。

本会ではこうした国の施策の検討状況の概要を入手して支部に情報を提供しながら、がんや生活習慣病予防を始めとする、各種疾病予防のための国民意識高揚を図るために、次の事項を重点として事業を展開した。

- 1) 全国支部と連携して、予防医学運動を推進するための基盤体制を充実強化しながら、国民の健康づくり活動に積極的に取り組み、健康づくり意識の向上に努めた。  
具体的な活動としては、予防医学事業推進全国大会や各地区(ブロック)会議を開催して予防医学活動の重要性を幅広く国民にアピールするための取り組みを行った。
- 2) 支部が行う健診検査活動を充実強化するために、支部の職員を対象にして、情報統計、業務、保健指導、検査技術等の各部門別の研修会を開催して、予防医学活動を推進するための人材育成に努めた。
- 3) 支部が行なう各種の健診・検査事業を推進するために必要な情報を、国が行う各種の審議会や検討会を傍聴して収集し適時支部に提供をした。  
また、本会のホームページの「情報ランド」コーナーを利用して、国や関係団体から発信される健康対策に関する情報を提供した。
- 4) 予防医学活動を円滑で効果的に推進するために結核予防会、日本対がん協会、全国労働衛生連合会、全国厚生農業共同組合連合会、健康保険組合連合会、国民健康保険中央会、全国健康保険協会、日本学校保健会、日本家族計画協会等の関係団体と連携をしながら事業の推進に努めた。
- 5) 全国 30 支部 33 施設が行なっている生化学検査で、共通試料を測定してその結果データを毎月本会に収集して評価をおこなう共有化事業を実施して、支部が行なう検査の精度管理の充実に努めた。  
更に日本医師会が実施している精度管理調査に参加している支部の精度管理調査の報告値と評価を収集して精度管理調査報告書をまとめた。
- 6) 全国支部で課題となっている、採血時の神経損傷事故、針刺し対策事故を減少させるために翼状針の普及活動を行った。翼状針を使用することで現状より 80%程度減少させることができることが、先行的に使用した 17 万件の採血の結果で確認できたので、各種会議等でデータを示し翼状針の使用を推進することに努めた。

## 1. 予防思想の普及活動と調査研究事業

各種の予防医学活動を普及啓発するために、関係団体と協議をしながら活動を展開した。全国支部と連携して予防医学事業推進を目的とした、全国大会、地区会議、予防医学技術研究会議、各種の研修会や会議を通じて予防医学活動の充実を図った。

### (1) 国民の健康づくり推進についての討議

全国大会、地区(ブロック)会議、予防医学技術研究会議、各種の職種別の研修会を開催し予防医学運動の活動理念について広く国民に理解を求めながら推進した。

#### ① 予防医学事業推進全国大会の開催

厚生労働省、文部科学省、日本医師会、日本歯科医師会、石川県、金沢市、石川県医師会

等の行政や医師会及び日本対がん協会、結核予防会等の関係団体、関連する多くの団体の後援を受けて、本会と一般財団法人石川県予防医学協会が共催をして、第61回の予防医学事業推進全国大会を、約1,000人の参加者を得て金沢市で開催した。

(大会の概要)

開催日時 :平成28年10月21日(金)

開催テーマ:未来につなぐ健康づくり

～笑顔であり続けるために～

主催・共催:本会・一般財団法人石川県予防医学協会

開催場所:金沢市文化ホール

記念講演:「糖尿病の克服は健康長寿への近道」

金沢医科大学 糖尿病・内分泌学内科学

教授 古家 大祐 先生

文化講演: 「笑い与健康」

落語家 林家 木久翁 師匠

(感謝状の贈呈及び各種表彰)

○本会の予防医学運動推進に学術的な面からの指導や技術面で功績のあった方に感謝状を贈呈した。

・感謝状:中川 秀昭(金沢医科大学総合医学研究所嘱託教授)

○予防医学運動の全国展開推進に功績のあった方3名に予防医学事業中央賞(小宮記念賞)を贈呈した。

・中央会賞:岩城 勝典 (岩手県予防医学協会理事兼事務局長)

三沢 恵美子(山梨県健康管理事業団総務部長)  
城村 邦彦 (長崎県健康事業団事務局長)

○大会前日の8日に金沢東急ホテルで開催されたレセプションの席上において、全国各地の支部で予防医学運動の実践活動にそれぞれの立場で取り組み、次世代を担う方に予防医学事業中央会奨励賞を授与した。

・奨励賞:支部より推薦された職員33名

② 予防医学事業推進地区会議の開催

全国5地区(東北、関東甲信越、近畿東海北陸、中国四国、九州)において、予防医学運動を推進する上での諸問題などについて、具体的な課題となる事項を討議して、地域での予防医学活動を進展させるために地区会議(ブロック会議)を開催した。

地区会議では、それぞれの地域ごとに抱える健診運営上の課題についての意見交換や、各種の健診事業ごとの新たなテーマや、予防医学運動を展開するための具体策を討議して、それぞれの地域の実情に応じた予防医学活動の推進を図った。

1) 東北地区会議(担当:公益財団法人岩手県予防医学協会)

期日:28年10月7日

場所:ほほえみの宿 滝の湯(山形県天童市)

参加者:17名(3支部・本会)

\*併設して10月6日に同会場で東北6県検診機関懇談会が開催された。:参加者37名(6支部・本会)

2) 関東甲信越地区会議(担当:公益財団法人埼玉県健康づくり事業団)

期日:28年10月13日～14日

場所:川越プリンスホテル(埼玉県川越市)

参加者:66名(10支部・本会)

3) 近畿・東海・北陸地区会議(担当:一般財団法人公衆保健協会)

期日:28年12月1日～2日

場所:名鉄グランドホテル(愛知県名古屋市)

参加者:80名(8支部・本会)

4) 中国四国地区会議(担当:公益財団法人高知県総合保健協会)

期日:平成28年11月19日

場所:ホテル日航高知ロイヤル(高知市)

参加者:35名

5) 九州地区会議(担当:公益財団法人長崎県健康事業団)

期日:平成28年11月10日～11日

場所:ホテルニュー長崎(長崎市)

参加者:35名(6支部・本会)

### ③ 第51回予防医学技術研究会議の開催

全国支部の医師や保健師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師等の技術系職員が、日常の健診・検査業務を通じて得たデータをまとめて得た知見や、集団健診現場での工夫などを基にして、予防医学活動に関連する研究成果を発表する場として、予防医学技術研究会議を一般財団法人広島県環境保健協会と共催をして、約300名の参加者を得て開催した。研究会議の中で「新しい健康増進事業の構築」と題したフォーラムディスカッションを開催して、これからの予防医学運動のあり方や向上策について参加者で討論をした。

#### (開催の概要)

開催日時:平成29年2月23日～24日

主催:本会・一般財団法人広島県環境保健協会

開催場所:広島県医師会館

教育講演:「疾病予防と制御における健診・検査の役割について」

講師:広島大学大学院医歯薬保健学研究院疫学・疾病制御学教授  
教授 田中 純子

研究発表:24部門91演題

参加者数:32支部300人

#### (学術賞の授与)

研究会議の席上、前年度の研究発表で優秀と認められた研究発表2題に対して学術賞(児玉賞)が授与された。

○「胃X線造影検査における透視観察の重要性について」

愛媛県総合保健協会 宮野 浩 他10名

○「腹部超音波検診における発見がんと5年生存率の実績」

鹿児島県民総合保健センター 満田 和也 外9名

## (2) 生活習慣病予防についての調査研究

### ① 小児保健

小児の生活習慣予防のための健康教育資料を作成して、支部を通じて学校や家庭の関係者に配布した。

家庭での教育の重要性や、小児期からの生活習慣予防健診の普及と、健診結果にもとづく生活習慣改善意識の向上に役立てた。

### ② 成人保健

全国支部が行なっている特定保健指導の事例や、ストレスチェックの評価活動などについて保健師が意見交換を行ない、効果的な保健指導方法の検討や評価研究を行った。

また、一般社団法人日本家族計画協会が企画する保健指導セミナーと連携して、支部職員の研修教育に努めた。

## (3) 精度管理についての研究

### ① 健診検査共有化事業の実施

全国30支部の33施設が参加対象にして、検査室で日常的に行なっている生化学検査方法(外注の場合も同様)で、標準的試料を測定したデータを毎月、本会で収集して精密度や正確度の評価を行なった。その結果を基にして、一定の範囲に収まっている支部を共有化されているものとして認定書を発行した。

またその結果を1年間分まとめて報告書を作成して支部へ配布した。平成28年度は参加した全支部のデータが評価基準を満たしており共有化されていた。

## ② 全国支部で実施されている日常検査の精度管理調査の実施

日本医師会臨床検査精度管理調査の全国支部の報告値及び評価を収集して、血液、生化学、尿検査の16項目について本会支部の測定値の調査内容を確認した。

また併せて検査の実施状況調査、日常精度管理状況調査も行い支部がおこなっている血液、生化学検査の概要(精密度、正確度)を把握してまとめて報告書を作成し支部へ提供をした。

## (4) 学会、専門医との研究協力

健診データを用いて、集団の健康特性を解析して健康課題を抽出する為の効果的な方法についての研究を行うために、公衆衛生学の専門医と、データを活用して、受診者や受診団体の健康管理に役立てることができるような研究に協力をした。

## 2、 組織対策

### (1) 特定健診・特定保健指導の実施体制づくり事業

被扶養者の特定健診・特定保健指導を受診する機会がなくなるのを防ぐための健診契約制度である医療保険者との集合契約に、全国支部の取り纏め契約をする中央団体として参加した。

契約先は「健康保険組合連合会」「地方公務員共済組合協議会」「社団法人共済組合連盟」「日本私立学校振興・共済事業団」「全国健康保険協会」の5団体である。

### (2) ヘルスアップネット健診推進事業

特定健診や健康診断を、全国支部で共同受託をして円滑に実施すること(ヘルスアップネット健診)を目的とした定例会議を、東京都支部、神奈川県支部の協力を得て年4回開催をした。

更に本会の、ホームページの中に開設してある健診情報の提供コーナーである「情報ランド」を通じて、全国の支部と健診情報を共有しながら連携を図った。

### (3) 健診・検査データ共有化事業

健診事業の全国展開を図る上で、全国支部の検査データの共有化が必要不可欠である。このために技術委員会や共有化専門委員会が中心となって、生化学検査部門、血液検査部門の検査データ共有化事業を積極的に推進し

た。また、共有化されたデータを活用して、「地域職域診断システム」を提供した。

#### (4) 研修事業

予防医学活動を推進する上で必要な従事者の知識向上のために、職種別の研修会を開催した。

研修会は目的ごとにテーマを決めて、研修内容を職種ごとの研修委員会で協議して内容を決めて実施した。

##### ① 全国業務研修会

全国支部の業務担当職員を対象とした研修会を開催した。健康診断事業や健康づくり活動の普及啓発を行ううえで効果的な業務活動の展開方法や、健康診断、保健サービスの提供方法等について意見交換や情報交換をした。

期日：平成29年2月9日～10日

場所：談露館(甲府市)

開催担当：山梨県健康管理事業団・本会

参加者：85名

##### ② 全国情報統計研修会

全国支部の成績書処理部門、情報処理部門担当者の研修会を開催して、受診者に分かりやすい成績書の作成や、効率的な成績書処理システムの構築方法等についての意見交換を行った。

神奈川県予防医学協会理事・循環器病予防部長の朽久保治先生の健康寿命の延伸を目指して(データの活用)と題した講義を受けた。

期日：平成28年8月25日～26日

場所：ロイヤルホール横浜

開催担当：神奈川県予防医学協会・本会

参加者：96名

##### ③ 保健指導従事者研修会

保健師、栄養士、運動指導士等を対象とした下記の研修会に支部職員の参加の機会を提供した。

ア)国立保健医療科学院研修会 (支部保健師1名派遣)

イ)保健指導者養成セミナー (日本家族計画協会の後援)

ウ)健康教育実践セミナー (日本家族計画協会と共催)

##### ④ 保健指導研修会

全国支部の保健師を対象とした研修会を開催した。ストレスチェックの集団分析方法や特定保健指導について、参加者が日常の経験事例を持ち寄り、事例報告と意見交換を行なった。

帝京大学大学院公衆衛生学研究科の谷原真一教授の「第三期特定健診・保健指導の改定のポイントと考え方」をテーマにした講義を受けた。

期日:平成28年12月15日～16日  
場所:保健会館別館 5F会議室  
参加者:17支部 28人

#### ⑤尿検査研修会

技術者研修会として、尿検査をテーマに研修会を開催した。  
学校の腎臓病検診や成人の尿検査等の日常業務の中での工夫や改善等についてグループディスカッション形式で意見交換を行なった。  
各県支部のそれぞれの方法を参考にしながら、実践的な意見交換を行なった。  
また、公立福生病院院長 松山 健先生の「尿検査従事者が知っておきたい（小児）腎臓病の知識」と題した講義を受けた。

期日：平成28年1月26日～27日  
場所：保健会館会5F会議室  
参加者：21支部22人

- (5) 国が主催して開催をする各種の検討会の傍聴と資料収集  
「がん検診の在り方検討会」や「特定健診・特定保健指導の在り方検討会」「ストレスチェック制度の在り方検討会」等の傍聴に努めて必要な資料や情報を収集して、メールや情報ランド（ホームページ）等を利用して適時適切に支部へ今後の事業運営上必要な情報を提供した。
- (6) 検診車等の整備助成事業の申請  
日本宝くじ協会の助成事業に応募して、胸部デジタルX線検診車の整備助成を受けた。この検診車は長崎県支部に配車した。

### 3. 会議の開催

#### (1) 全国運営会議

全国支部の運営に携わる役員・事務局長などが一堂に会して、予防医学運動推進上の諸問題解決に向けたテーマごとに、積極的な討議と情報交換を行い、全国運動の一層の伸展に努めた。

##### (第1回)

日時:平成28年6月 東京 グランドヒル市ヶ谷会議室  
テーマ:「これからの健診事業の運営について」  
参加者:33支部79人

##### (第2回)

日時:平成28年10月 金沢市 東急金沢ホテル会議室  
テーマ:「健診データ処理システムの更新整備かかる課題解決に向けて」  
参加者:33支部95人

#### (2) 技術運営会議

各支部の技術部門運営責任者が一堂に会して、予防医学運動を支える技術分野の質的向上に向けた討議と情報交換を行い、技術部門の一層の質的充実を図った。

全体討論として「健診時のリスク管理」をテーマにしてディスカッションを行った。採血時の神経損傷事故防止のために翼状針を使用することが有効であることが報告された。

日時:平成29年2月22日 広島市 広島県医師会館会議室  
全体討論:「健診現場の安全管理」  
参加者:32支部88人

### (3) 医師協議会

予防医学運動を推進するために、支部に勤務する医師が集まり予防医学活動のあり方や進め方、健診・検査をより充実させるため等の検討・協議を行った。

本年度は胃、胸部、MMG等の検診フィルムを読影医師と撮影技師がどのように連携をするかをテーマにして、参加支部での様々な取り組みについて報告があり参加者全委員で討議をした。

日時:平成29年3月3日～4日  
場所:ハートンホテル心齋橋筋(大阪市)  
参加者:13支部35人

## 4. 委員会の開催

各種の健診検査について助言・指導を受ける学術委員会を開催した。また予防医学活動を充実して行なうための活動を協議する委員会や、支部職員を対象に行なう職種ごとの具体的な研修会や会議等の企画立案を行うために、各種の委員会を適宜開催して討議した。

### (1) 学術委員会

#### ① 先天性代謝異常学術委員会

タンデムマス法導入に伴う検査をテーマにしたワーキンググループを10月と3月の2回、検討会を開催した。検査運用上の課題や、二次疾患項目検査に対する対応方法について協議をした。

#### ② 学術賞審査委員会

平成28年度学術賞受賞論文選定のための委員会を開催した。平成27年度の技術研究会議で報告された演題の中から、表彰規定により推薦された14演題について、内容審査の結果2演題を選んで学術賞(児玉賞)受賞演題とした。

受賞演題、受賞者は広島市で開催された第51回予防医学技術研究会議で表彰された。

### (2) 本部機構委員会



① 企画委員会(28年6月東京:10月金沢市)

本会及び支部運営の上で必要な、国の施策に関する情報や必要な事項について検討・協議を行なった。

金沢市で開催された全国運営会議のテーマに「健診データ処理システムの更新整備にかかる課題解決に向けて」を選定して支部が直面している具体的な課題を協議した。

また、ヘルスアップネット健診推進委員会で協議した、全国規模の事業所の入札で契約代行機関が入札に参加して落札した事例について状況報告をして今後の対応を協議した。

② 技術委員会(29年2月広島市)

支部の技術部門運営についての協議や新規事業、新しい技術の導入等健診技術に関する意見交換を行なった。

本年度は検体検査の外注をしている場合の精度管理をテーマにした意見交換を行なった。

また、共有化専門委員会で、全国支部の行なう生化学検査データを共有化する為のデータモニタリングと評価の状況を報告した。

③ 研修委員会

業務研修委員会、情報統計研修委員会、教育研修専門委員会(尿検査・生理機能検査)、保健指導委員会を開催した。

尿検査教育研修委員会では、支部で使用している各メーカーの尿検査試験紙の感度についての検定を行い、その結果と利用にあたり必要な情報を支部へ提供した。

5. 広報活動の推進

本会の運動理念や、本会ならびに支部の活動を広く一般に知らせ、予防医学運動についての、正しい知識の普及と理解を図るために、積極的に出版物の発行や配布をして広報活動を推進した。

① 予防医学ジャーナルの発行(年6回発行)

② 生活習慣病予防に関するリーフレットの作成発行(8万部)

③ ホームページによる情報公開の推進

④ 情報ランドを活用した支部との意見交換の推進と情報提供

6. 総務事項

(1) 理事会 : 年6回開催(平成28年5月、8月、平成29年3月)

(2) 評議員会 : 年1回開催(平成28年6月)